

2025 年度
【修士課程】

早稲田大学大学院文学研究科
専門科目
現代文芸 コース

入学試験問題
※解答は別紙（横書）

I 以下の設問に答えなさい。

アンドレ・ブルトン『シュルレアリスム宣言』（1924 年）の訳者でもある巖谷國士は、『シュルレアリスムとは何か』（1996 年）のなかで次のように書いている。

言葉をこういうふうにすこし細かく考えたうえで、いったんまとめてみますと、シュルレアリスムはレアリスムを超えるという態度とはちがうもので、むしろ「シュルレエル」の「イスム」であり、「シュルレエル」にいたろうとする運動であるということ。じゃあ「シュルレエル」とは何なのかといえば、これは一応「超現実」という言葉に訳してもいいんですけども、とにかく現実というものが世の中にあるとして、それとはまったくちがう別の世界のことを「超現実」と呼んでいるわけではありません。そうじゃないんです。むしろ現実のなかにあるもの。「超現実」はまさに現実内に内在しているということですね。

ところで、われわれが「現実」といっているものが本当の現実なのかどうか、という問題が一方にあります。われわれが「現実」といっているものは、だいたい現実だと思いこまされているものばかりですね。「現実」という言葉をわれわれは日常的に使うことはできるけれども、その「現実」は決定的なもの、自明のものではないはずです。もともとは謎をはらむ、つかみどころのない時間空間のなかに、現実と称するものを情性的に見つけ、それでなんとか「現実生活」をやりくりしているのが現代人でしょう。ところがそれは主観的な約束事であって、客観的な、オブジェクティブな、つまりオブジェの現実ではない。そんな日常の約束事とつきあっているうちに、なにかフワッと、見たことのない、未知の驚きをよびおこす現実があらわれたというようなときに、それを「超現実」と呼ぶべきではないのか。

（巖谷國士『シュルレアリスムとは何か』ちくま学芸文庫、2002 年、pp21-22）

これを読み、巖谷の所謂「超現実」の意味を踏まえたうえで、文芸と「超現実」の関係について、あなたの考えるところを具体的な作家や作品を挙げて論述しなさい。

II 以下の設問に答えなさい。

以下の文章を読み、人の移動をテーマとした近代以降の小説（どの言語圏のものでも構わない）を一篇挙げて、その小説における個人と国家の関係を論じなさい。

人の移動は多様であり、個々の人の移動を大きな物語に回収することはできない。それを国民国家の物語にしてきたのは、眺める側、そして研究者の側、小説の書き手の側であった。人びとが生まれ育った地に愛着を感じるのは、そして慣れ親しんだ風景や馴染みの人びとに安らぎを覚えるのは当然であろう。しかし、そこから離れて生活をするようになるにしたがって、「故郷（故里）」が創られ、「母国」が生まれるには、ある種の作為が介入する。新たな地における不安や恐怖こそは、共同性を強く意識させてきた。しかしあらためて言うまでもなく、それがナショナルな記憶として立ちあげられるのは、近代国家の創造であり、想像であった。ネーションの形成がナショナルな記憶やシンボルを創り出し、ナショナリズムを掻き立ててきたのである。

個々の移動する人びとは、このような大きなナショナルな物語のなかに回収されてきたわけではない。それにもかかわらず、研究者は、人の移動をさまざまなモデルや型によって把握しようと努めてきた。言うまでもなく、理論的な枠組みがない限り、そしてそれらを捉える言葉がない限り、研究は不可能である。しかしその枠組みや言葉が有する与件／前提や歴史性を問うことは希であった。理論が人の移動を国民国家の形成の物語にしてきたのは、あるいは文学が故郷への思いを綴ってきたのは、国民国家の歴史のなかで人びとの移動が果たした役割を映し出してきたからでもある。言い換えるならば、社会科学や小説が、人の移動を国民国家の物語にしてきたのであった。もともと多様である人の移動を国民国家の物語として描いてきたこと、そして国民国家の物語として小説や理論が成り立ってきたことは、言語を通じた表現という行為のジレンマでもある。いま課題としてあるのは、そのジレンマのなかで、人の移動がもつ多様性をどのように描きうるのか、そして国民国家の物語からどのように解放されうるのか、ということにある。

伊豫谷登士翁・平田由美（編）『「帰郷」の物語／「移動」の語り』平凡社、2014年

III 下の1から10の設問事項から5項目を選び、それぞれについて200字以内で説明せよ。記入は順不同でもよいが、設問項目番号は解答欄左上の（ ）内に明記すること。

- 1 津島佑子
- 2 『イグアナの娘』
- 3 オルガ・トカルチュク
- 4 チヌア・アチェベ
- 5 『八月の光』
- 6 ゴシック小説
- 7 ナラティヴ
- 8 「影響の不安」
- 9 堀口大樹
- 10 『砂の女』

———これより先の余白には絶対に記入しないこと———

(裏へ続く)

————これより先の余白には絶対に記入しないこと————

III ————ここから記入すること———

設問番号()

A full-page view of a blank sheet of white graph paper. The grid consists of thin, light gray horizontal and vertical lines intersecting to form small squares. There are approximately 20 columns and 18 rows of squares visible on the page.

設問番号()

[illegible]

(裏へ続く)

[illegible][illegible]

6 / 7

[illegible]

7 / 7